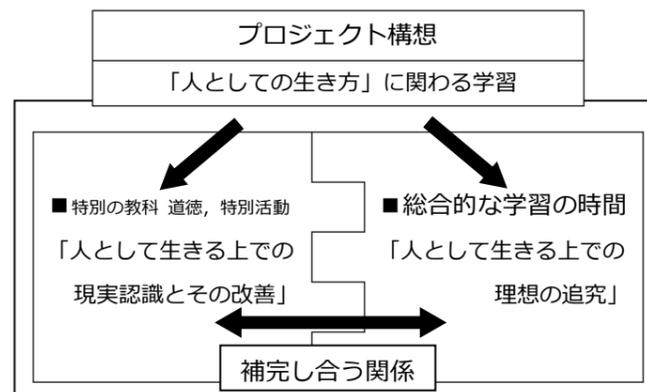


自己の生き方を追究し続けるヒューマンセミナーの構想

○木村義輝 佐々木淑乃 佐々木聡也 工藤真以 藤村和弘 中村正成

1 プロジェクト構想での総合的な学習の時間の位置づけ

本校では、プロジェクト構想として、1年生から3年生までそれぞれの発達段階に応じた指導目標をもち、「学習と生活の一体化」が図られるような場を設定している。この場を「**学年プロジェクト**」と呼び、1学年では「**トレセン**」^{※1}、2学年では「**校外学習**」^{※2}、3学年では「**学習旅行**」^{※3}として、学年経営の根幹と位置付けてきた。その基本的な学びの構想（展開）を端的に表したものが、1学年での「**自分自身を見つめる**」、2学年の「**他者から学ぶ**」、3学年での「**生き方を考える**」というプロジェクトテーマである。平成12年度からの「総合的な学習の時間」の実施に伴い、プロジェクト構想に関わる実質的な理念を本校の総合的な学習の時間（ヒューマンセミナー、以下HS）に置きながら、特別の教科 道徳や特別活動の内容の見直しを図ってきた。そして、HSにおいては、「**人として生きる上での理想の追究**」という側面を重視すること、そのために道徳や特別活動において「**人として生きる上での現実認識とその改善**」という意味合いをそれぞれ色濃くする方向性のもと実践を重ねてきた。



※1 **トレセン** = 「生活トレーニングセンター」の略称。日常生活訓練や2泊3日の宿泊での集団生活を通して、自分に足りないものは何かについて目を向けさせていく。

※2 **校外学習** = 学級毎に県内4カ所に分かれて第1次産業を体験する。講師の方々の生き方に触れたり、実際に働いたりすることを通して、生き方についての考えを深めさせていく。

※3 **学習旅行** = 魅力的な生き方をしている講師との出会いを通して、価値観の揺らぎや新たな視点を獲得させ、人としていかに生きるべきかについてさらに追究させていく。

2 総合的な学習の時間が育成に寄与しうる人間の強み・育成を目指す資質・能力

寄与しうる人間の強み	自ら課題を見付け、解決の道筋がすぐには明らかにならない課題や、唯一の正解が存在しない課題などについても、自らの知識や技能等を総合的に働かせて、他者と協働しながら粘り強く対処して解決し、自己の生き方を考えていくこと。		
育成を目指す資質・能力	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさに気づく。	実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力。	探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、自ら社会に参画しようとする態度。

3 HSの構想

学年	プロジェクトテーマ	「HSテーマ」 ■学習フィールド	重点目標	中心となる活動
3学年	考える 生き方を	「地域と生きる」 ■日本・世界	3年生では、自分と他者あるいは社会的な観点から自分の生き方を考える活動を重視する。学習フィールドをさらに広げ、様々な人の生き方（日本・世界）に触れさせ、自分と他者から受けた評価とを照らし合わせながら、地域（社会）にどのように関わり、寄与していきたいか、自己の生き方を創造することをねらう。	・学習旅行 ・個人課題の追究
2学年	学ぶ 他者から	「地域と関わる」 ■岩手	2年生では、1年生での自分自身を見つめた学習から視野を広げ、自分自身の考え方や行動が、果たして社会的に適切かどうかということを考えさせる。他者評価を得るということを目的に、実際に働くことで様々な人の生き方（岩手県内）に触れさせ、今の自分を深く振り返らせる活動になることをねらう。	・校外学習 ・地域と関わる活動
1学年	見つめる 自分自身を	「地域を知る」 ■盛岡	1年生では、自分自身を見つめる学習を中心に展開する。地域に関わっている方（盛岡市内）から講演をいただいたり、調べたりすることを通して、自分のあるべき姿やこれからの自分の課題を捉えさせ、自分自身を深く見つめさせることをねらう。	・トレセン ・地域に関わる人の調査 ・職場訪問

4 研究の視点と内容（※括弧内は全体研究との関わり）

（1）探究的な見方・考え方を働かせる「真正の学びの場」の設定（ア 教科固有の見方・考え方を働かせる「真正の学び」の場の設定）

探究的な学習（課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現）の場を、各学年、年に1回必ず設定する。

学年	探究課題の分類	取り組み内容（探究課題）
3学年	生徒の興味・関心に基づく課題	「これから地域（社会）にどのように関わり、寄与していきたいか」というテーマについて、自分の考えの根拠の裏付けとなる人物や取り組み等を調べてレポートにまとめて、文化祭で発表する。（社会参画）
2学年	職業や自己の将来に関する課題	1学年での学びをもとに、自分たちが主体的に「地域に関わる」ことができる活動は何かについて考え、実行に移す。（働くことの意味や働く人の夢や願い）
1学年	地域や学校の特色に応じた課題	盛岡に住む「地域に関わる」人物を探し、レポートにまとめ、実際に訪問することを通して、「地域を知る」。（町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織）

（2）育成を目指す資質・能力の明確化（イ 情報や情報技術の効果的な活用）

各学年の段階で、資質・能力の育成をどこまでねらうのか、明確にしていく。その育成に向けて、教科等横断的な視点での実践、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用する実践（情報活用能力）を積み重ねていく。

（3）3年間を見通した年間指導計画の策定（ウ 学びの自覚化）

（1）・（2）をもとに、年間指導計画を策定していく。学びの履歴を残し、自己の変容をメタ認知させるためにOPPシートを活用し、学びの自覚化を促す。